

## 会 員 連 絡

総会および大会について

二〇〇九年五月一六日(土)・一七日(日)の両日、本学会第六一回総会及び第六八回大会が慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催され、参加者は延べ約七〇〇名で盛況であった。

総会における報告及び議決事項は左記の通りである(敬称略)。

議長 挨拶	飯田 隆
会長 挨拶	高山 守
一般報告	北川東子
国際交流活動報告	種村完司
前年度決算報告	堀江 聡
会計監査報告	高橋久一郎・山田弘明
本年度予算審議	堀江 聡
編集委員会報告	座小田豊
若手奨励賞表彰式	受賞者 村山達也

対象論文：『ベルクソン』直接与件』における問題と実在」

一般報告

二〇〇八年度日本哲学会事業報告を既に配布した報告の記載通りに承認した。

会計報告

二〇〇八年度日本哲学会会計報告を既に配布した報告の記載通りに承認した。

二〇〇九年度日本哲学会予算を既に配布した報告の記載通りに承認した。

## 新役員組織について

委員および会計監査

郵送および大会会場での投票による選挙結果にもとづき、次の方々に就任を依頼し承諾を得た。投票者総数は、一二二名であった。辞退者を除く選挙結果は左記の通り。

(開票立会人は、榭原哲也、鈴木泉の各氏)

\* 全国区(敬称略)

野家啓一(五三)	高山 守(四六)	飯田 隆(四四)	北川東子(四四)	鷲田清一(三六)
伊藤邦武(三四)	清水哲郎(三)	一ノ瀬正樹(二六)	牧野英二(二六)	山内廣隆(二四)
岡本由起子(二二)	高田 純(二二)	石崎嘉彦(二二)	小林道夫(二二)	
大橋容一郎(一六)	加藤泰史(一四)	竹内章郎(一四)	古茂田宏(二二)	

\* 地方区(敬称略)

北海道地区	奥谷浩一(三三)	新田孝彦(三三)
東北地区	座小田豊(八)	篠澤和久(六)
関東地区	神崎繁(九)	御子柴善之(三三)
中部地区	金山弥平(五)	服部裕幸(五)
近畿地区	入江幸男(十)	工藤和男(六)
中国・四国地区	石田三千雄(十)	松本長彦(四)
九州・沖縄地区	種村完司(五)	円谷裕(二五)

六月二〇日に開催された第一回委員会において、会長は高山守氏に決定した。

\* 会計監査(敬称略)

高橋久一郎(一九) 山田弘明(二六)

編集委員

第一回委員会において次の会員に編集委員を委嘱した(三十二名 敬称略)。

石川 求	石田三千雄	石原孝二	伊豆蔵好美	和泉ちえ	伊勢俊彦
伊勢田哲治	上枝美典	上野 修	大越愛子	荻野弘之	柏端達也
榎 則章	金井淑子	金山弥平	金子洋之	工藤和男	久保田顕二
河野哲也	佐藤義之	篠澤和久	杉山直樹	富田恭彦	直江清隆
檜垣良成	舟場保之	別所良美	水谷雅彦	望月太郎	山口誠一
山口義久	吉永和加				

六月二〇日に開催された第一回委員会において、金山弥平氏が編集委員長に就任することが決定し、七月二一日に開催された第一回編集委員会において、その旨が了承された。

事務局長および事務局幹事

事務局校会員のノ瀬正樹氏が事務局長に、また榊原哲也氏、鈴木泉氏が事務局幹事に就任することが決定した。

来年度大会について

開催場所 大分大学

日 時 二〇一〇年五月一五日(土)・一六日(日)の予定

来年度大会は次のように行われる予定である(敬称略)。

第一日目

午前 一般研究発表

午後 総会

シンポジウム「現代における「死」

提題者 田中智彦

交渉中

藤田真利子

司会 一ノ瀬正樹、大橋容一郎

第二日目

午前および午後 一般研究発表

午後

共同討議 「形而上学再考」

提題者 坂下浩司

柏端達也

司会 入江幸男

共同討議 「哲学史を読み直す マルクス」

提題者 田畑 稔

麻生博之

司会 高田 純

一般研究発表について

- 1 応募方法 下記5に掲げる所定の書式にしたがってプリントアウトし、ホッチキスで留めた「発表要旨」と「一般研究発表応募調書」各三部ずつを提出すること。要旨と調書の電子ファイルは、メール添付にて事務局宛送ること。

・応募調書 (Word PDF)

郵送用封筒の表に「一般研究発表要旨在中」と明記すること

応募した書類は返却しない。

- 2 応募資格 日本哲学会会員であること。ただし、応募時に会員でなくとも、入会申込み書を提出すれば、仮受領の形で受け付ける。

- 3 応募締切 二〇〇九年十一月二三日(第二金曜日)  
ファイル：当日中必着 印刷物：当日消印有効
- 4 審査 編集委員会で審査・選考する。結果は大会前の三月ごろに通知予定
- 5 発表要旨 書式 B5サイズ三枚以内、  
横書き、三六字・三五行、フォント一〇ポイント、上余白三〇ミリ、下余白二五ミリ、左右余白二七ミリ。頁番号はつけないこと。ただし、一頁目のレイアウトは以下のとおり。  
上部の八行のうち第一行目と第八行目を空行にして、残りの六行のなかに題目、氏名、ふりがな、可能であれば氏名の下に所属機関を収める。

題目は、一二ポイント中央、副題がある場合には、一ポイントまたは一〇ポイント中央、氏名は、一ポイントまたは二ポイント右寄せ。ふりがなは、ルビの体裁でも、氏名の直後に丸括弧のなかに入れてもよい。所属機関は、九ポイント右寄せ、丸括弧に入れる。

- \* ソフトの仕様から生じる若干の差は許容。
- \* 応募された原稿をそのまま版下として使用するので、この書式(レイアウト)を遵守する必要がある。

Wordをお使いの方は、ホームページに、設定したファイルを用意しましたのでご利用ください。

### 公募論文について

- 1 論文テーマ 哲学に関するもの。ただし、未公開のものに限ります。  
他所での口頭発表等をベースにしている場合は、その旨論文に記載してください。
- 2 応募資格 当年度会費を納入済みの日本哲学会会員であること。ただし前年度の『哲学』に公募論文が掲載された者を除きます。
- 3 使用言語 日本語、もしくは英語、ドイツ語、フランス語。  
以下の形式で応募して下さい。
- 4 原稿分量 \* 日本語、欧文、いずれの場合も句点、ピリオド等も字句数に数えます。  
\* 枚数は厳守のこと。  
\* 日本語の場合：本文と注を四〇字×四〇行でレイアウトして(改行などによるスペースも含めて)一〇枚以内。  
\* 欧文論文の場合：本文と注を含め六〇〇語以内。  
日本語の全訳(もしくはパラグラフの順序に忠実な要約)を付すこと。
- 5 欧文要旨 日本語、欧文論文ともに、三〇〇語程度の欧文要旨(英・独・仏語のいずれか)とその日本語訳を作成すること。要旨も評価の対象ですので、ネイティブ・チェックを受けるなど、きちんとしたものを提出するよう留意してください。

- 6 提出物 原稿 三部

A4判用紙に下記の要領で印刷して下さい。応募原稿には、氏名、ふりがな、所属機関名を明記のしなさい。

- \* 日本語の場合：一頁四〇字×四〇行で印字したものの(本文と注は同じポイントで)。
- \* 欧文論文の場合：特に印字の指定はありません。日本語訳は日本語論文と同じ形式で一頁四〇字×四〇行で印字する。
- \* 欧文論文の場合、ネイティブ・チェックをあらかじめ受けるものとします。  
ネイティブ・チェッカーによる、チェック済の証明書と、そのチェッカーの経歴書(ともに書式自由)各一部添えてください。

### 欧文要旨とその日本語訳 各三部

A4判用紙に印刷して下さい。氏名、ふりがな、所属機関名を明記のしなさい。

## 「応募論文調書」 一部

指定書式をプリントアウトし、必要事項を記入してください。

### 上記「原稿」「欧文要旨とその邦訳」「応募論文調書」の電子ファイル

(論文原稿はワープロ用のファイルとテキストファイルの二種類)

## 7 提出要領

### ファイル

論文原稿、欧文要旨及びその邦訳、応募論文調書を添付ファイルとしてEメールで日本哲学会事務局 (nittetu@philosophy-japan.org) まじ送る。\*

### 印刷物

必要部数を揃え、封筒の表に「公募論文原稿在中」と明記の上、日本哲学会事務局宛に郵送のこと。事務局の住所は、本会員連絡の末尾に記載されています(提出された原稿等は返却されません)。

## 8 応募締切

随時提出することができます。『哲学』次号掲載のための締め切り目安は六月末ですが、その期日内に提出された論文であっても、採用された論文の数が多い場合や、書き直し等により審査に日数を要する場合など、次々号以降に掲載が延期されることもあります。

## 9 審査

編集委員会の責任において審査・選考します。審査の過程で問題点を応募者に指摘し、書き直しの要求をする場合があります。また、不採用になったものについても、その結果と理由を通知しています。なお、審査の過程が論文によって異なるため、結果の通知は随時行うこととなります。

かつて「不採用」と判定された応募者が、新たに論文を投稿し、この新規投稿論文が旧論文とほぼ同内容と判断された場合は、「二重投稿」とみなされて「不採用」となります。

書き直し再投稿、字句修正指示を受けた修正稿を提出する場合は、論文原稿、欧文要旨及びその邦訳、論文調書を添付ファイルとしてEメールで日本哲学会事務局まで送付し、印刷物は採用が確定した後指示を受けてからお送りください。

欧文論文の場合は、書き直し再投稿、修正稿の審査結果が出た後、改めて確定稿についてネイティヴ・チェックを受け証明書を提出してください。

## その他

### 会費納入のお願い

二〇〇九年度会費を未納の方は至急お納め下さい。今年度会費(六〇〇〇円)を含めたご請求額は封筒の宛名ラベルの右下に表示してあります。同封の振込用紙にて振込をお願いいたします。(納入会費に超過分のある方には振込用紙を同封してありません。)また、会費未納三年以上の方は会員資格にかかわる重大なお知らせを同封しておりますので、よくお読みいただき未納分の会費をお納め下さい。なお、ご請求金額は二〇〇九年七月十七日現在の資料(会費年度は、三月一日から翌年の二月末まで)に基づいております。行き違いの節はご容赦下さい。領収証は郵便振替用紙の払込票をもってかえさせていただきます。

### 会員資格について

近年連絡先不明の長期会費未納会員の方が多く、日本哲学会の運営および財政上不都合が生じております。日本哲学会では、会費未納猶予期間四年以上会費未納の会員は、日本哲学会会員資格を停止するものとし、『学会誌』『哲学』等の発送も停止しております。会費未納期間が三年以上になる会員の方には、書面にてその旨ご連絡させていただきます。四年目の会費年度中に会費を納入していただけない場合は、会員資格が停止されますのでご注意ください。なお、会員資格を停止された方が資格の復活を希望される場合は、会費未納期間分の会費(二四〇〇〇円分)の支払いを条件といたします。

『哲学』の電子ジャーナル化について

日本哲学会では、会誌『哲学』に掲載された論文を電子化し公開する電子アーカイブ化の作業を企画してきましたが、平成二〇年度 独立行政法人・科学技術振興機構（JST）の採択を受け、JSTが運用する Journal Archive (<http://www.journalarchive.jst.go.jp/>) において、会誌『哲学』創刊号から五八号までが公開されることになりました（二〇〇九年七月公開）。五九号以降は J-STAGE (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>) にて公開していく予定です。

著作権譲渡に関する異議申し立てについて

電子ジャーナル化に伴いまして、昨年二月末よりホームページ上『哲学』六〇号、会員連絡（二〇〇九年四月発行）を通じて、創刊号から二〇〇八年度以前の論文についての著作権譲渡の願いをさせていただいて参りましたが、二〇〇九年五月末日をもちまして、著作権譲渡に関する異議申し立ての期間が終了しました。

著作権規定に明記しておりますように、著作権が本会に帰属しても、著作者自身による利用を妨げるものではありません。また、本会からの「著作権譲渡のお願い」の通知がすべての著作権者、または相続権を持つ遺族の方の目に触れるとは限らないと思われまますので、この通知を知る機会がなかった等の理由で期限後に該当者からお申し出があれば、当該論文の公開はそれ以後の適当な時期をもって中止することになります。

会員名簿について

名簿は従来、二年毎に発行されており、本年度が発行の年に当たっていましたが、会員より、会員選挙に合わせて発行すべきではないか、との意見が事務局に寄せられました。そこで委員会において種々議論の結果、今年度の名簿発行は見送り、来年（すなわち次回選挙前年）の夏に次の名簿を発行することになりました。以後は従来どおり、二年毎に、会員選挙前年の夏に発行されます。

ただし、二〇〇七年七月の前回名簿発行以来、名簿変更の会員の方がかなりの数に上っておりますので、このたびの会員連絡には、二〇〇九年七月三十一日現在の簡易名簿を同封いたしました。

事務局移転のお知らせ

当事務局は、慶応義塾大学から東京大学に移転いたしました。

東京大学 大学院人文社会系研究科哲学研究室内 日本哲学会事務局

〒一三・〇〇三三 東京都文京区本郷七・三・一

電子メール: [nittetu@philosophy-japan.org](mailto:nittetu@philosophy-japan.org) 電話: 090-3802-5114

（なお、事務局員は常勤しておりませんので、事務局へのお問合せ等はなるべく郵便または電子メールにてお願いいたします。）

以上

二〇〇九年七月末日

日本哲学会事務局

会 員 各 位